基本目標１　確かな学力の定着

（１）主体的・対話的で深い学びの実現

（２）ＩＣＴ活用による情報活用能力の育成

（３）言語活動の充実による読解力・表現力の育成

（４）筋道立てて説明できる論理的思考力の育成

（５）英語コミュニケーション能力の育成

（６）就学前教育の充実

子どもたちがこれからの複雑で変化の激しい時代を生き抜くためには、知識や技能の定着とともに、思考力、判断力、表現力をバランスよく育成することや言語能力、問題解決能力、情報活用能力など汎用的な資質・能力を育成する必要があります。

いかに社会が変化しようとも、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決できるよう、ＩＣＴを効果的に活用しながら、個に応じた指導や対話的な学びをこれまで以上に進め、確かな学力の定着を図ります。

１　主体的・対話的で深い学びの実現

めざす子どもの姿　　問題や変化に対して仲間とともに能動的に学び続ける子ども

子どもたちが学習内容を深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めます。

授業改善にあたっては、これまでも本市が重点的に取り組んできた「問題解決的な授業づくり（四日市モデル※1）」を基盤にするとともに、教科等の学習でＩＣＴ機器を効果的に活用したり、言語活動を充実したりすることで、「個別最適な学び※2」、「協働的な学び」を目指します。

＜施策の内容＞

（１）各教科等における資質・能力を育む授業づくりの推進

○子どもたちが問題意識や目的意識を大切にし、各教科の見方・考え方※3を働かせながら、確かな資質・能力を身に付けることができるように、各学校の授業改善の取組を支援します。

○全国学力・学習状況調査やその結果を分析し、本市の課題等に合わせた授業改善の方向性を示します。

○各学校の実態に合わせた少人数授業や小学校高学年一部教科担任制などを推進します。

○確かな資質・能力を育むために、ＩＣＴ機器を活用した授業を推進します。

（２）学習の基盤となる資質・能力の育成

○子どもたちが自発的に調べ、調べた情報や自分の考えを整理し、整理したことを他者や社会等に発信するなど、問題発見・解決能力や情報活用能力が育つ取組を啓発します。

○社会の中で生きて働く読解力や表現力、論理的思考力を教科横断的に育成できるように、各教科等において言語活動を充実させる取組を推進します。

（３）ＩＣＴ機器を活用した家庭学習と授業の連携

○児童生徒が、授業で身に付けた知識・技能を家庭学習で確認するとともに、その学習した履歴や達成状況を教員が把握し、授業に生かすことができるよう、ＩＣＴ機器の活用を推進します。

○子どもたちが自分の学習状況を把握し、自分で学習する教材を見つけるなど自らの学習を調整していけるよう、タブレットを活用した学習環境を整えます。

学校での取組例
・全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた、授業研究や授業改善研修会等の実施
・学校の実態等に合わせたカリキュラム・マネジメント※4の実現
・全教育活動を通じたＩＣＴ機器の積極的な活用
・「家庭学習の手引き」（小）や「シラバス（年間指導計画）」（中）を基にした家庭学習の充実
・子どもたちが自分の考えや思いを表現する機会の保障や言語環境の整備
・学びの保障オンライン学習システム（MEXCBT：メクビット）※5を活用した家庭学習の充実

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和８年度）
「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値	小学校　９８．９ 中学校　１０２．５	小学校　１０２ 中学校　１０３

全国平均値を１００としたときの全科目の市平均値

※１　本市が考える「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の１つ。①問題の理解、②問題の特徴づけと表現、③問題の解決、④解決方法の共有、⑤問題の熟考と発展という５つの学習プロセスを大切にしている。
※２　教員が個に応じた学習課題や学習活動を提供することによって、児童生徒一人一人が自分自身にとって最適な学習となるように調整する学びの総称。
※３　各教科等において、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方。
※４　①児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと。
②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。
※５　児童生徒がコンピュータ端末を用いてオンラインで学習・アセスメントが可能なＣＢＴ（Computer Based Testing）システムのこと

２　ＩＣＴ活用による情報活用能力の育成

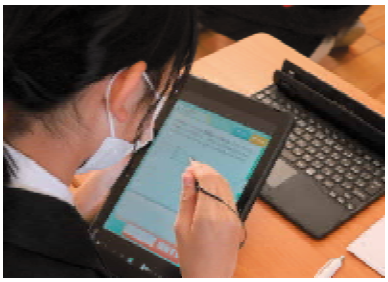
めざす子どもの姿　情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して主体的に学ぶことができる子ども

世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力を育成します。
そのために、情報手段となるコンピュータの基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力等の向上を図ります。

＜施策の内容＞

（１）情報活用能力を育成するＩＣＴを活用した教育活動の充実

○発達段階に応じたつけるべき情報活用能力の観点別到達目標を策定します。
○主体的・対話的で深い学びのためのＩＣＴ活用についての研修会を実施します。
○デジタル教科書や個別最適化された学習教材、クラウドサービス等の学習環境の整備とともに、それに耐えうるネットワークの拡充・整備を行います。



（２）プログラミング教育推進のための教職員研修

○論理的思考力を高めるための授業づくりを推進するために、「小学校におけるプログラミング教育～四日市版カリキュラム～」※を改定するとともに、実践的な教職員対象の研修を行います。

（３）情報モラル教育の充実

○ＩＣＴのよき使い手になると同時に、よき社会の担い手になることを目指すデジタルシティズンシップの視点を取り入れた情報モラル教育の研修会等を実施します。
○タブレット端末の家庭への持ち帰り、家庭でのルールづくり等を通して適切な情報活用を促します。

学校での取組例
- 教育活動全般におけるＩＣＴの活用
- 四日市版カリキュラムに沿ったプログラミング教育の実施
- 家庭と連携したデジタルシティズンシップの視点を取り入れた情報モラル教育の実施

【関連】新教育プログラム２　論理的な思考で道筋くっきりプログラム

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和８年度）
ほぼ毎日、コンピュータなどのＩＣＴ機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している児童生徒の割合	５．７％（参考値）	１００％

※　小学校におけるプログラミング教育を発達段階に応じた指導内容を示した四日市市独自のカリキュラム。

３　言語活動の充実による読解力・表現力の育成

めざす子どもの姿　文章を正確に理解し、相手に適切に伝えることができる子ども

言語は、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤として、生涯を通じて個人の自己形成に大きく関わります。そのため、教育課程全体を通じて、学習や生活の基盤となる読解力・表現力等の言語能力を育成していく必要があります。

そこで、読解力向上について重点的に指導するとともに、学校教育活動全体で読む・話す・書くといった言語活動の充実を図り、「文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成します。

＜施策の内容＞

（１）読解力を高める授業づくりの推進

○読解力を育む「２０の観点」※1に基づいた対応ワークシート等を作成し、学校の読解力向上を目指した取組の支援をします。

○読解力向上の推進校を設置し、効果的な取組を検証するとともに、研修会等で市内小中学校にその成果の普及を図ります。

○中学３年生を対象に「リテラス論理言語力検定」※2を実施します。

（２）子どもが思いや考えを出せる場の設定

○中学生スピーチコンテスト「THE　BENRON」等を開催し、子どもたちがよりよい表現について考える場とするとともに、そこで得られた成果や課題を市内全体に還流します。

○子どもたちの発達段階に応じて、ＩＣＴを活用した言語活動を推進します。

学校での取組例
- 読解力を育む「２０の観点」に基づいた対応ワークシートの活用
- 発達段階に合わせたスピーチ活動等の表現活動の実施
- ＩＣＴを活用したプレゼンテーションなどの表現活動の実施
- 話す・読む・書く活動を関連させた指導の実施

【関連】新教育プログラム１　読む・話す・伝えるプログラム

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和８年度）
「全国学力・学習状況調査」における読解力に関連する問題の平均値	小学校　１００．７ 中学校　１０１．１	小学校　１０２ 中学校　１０３

全国平均値を１００としたときの全科目の市平均値

※１「文章を正確に理解する資質・能力」を育むための指導ポイントを２０の観点で示したもの。どの学年のどの教材文でどんな資質・能力を育むのかを示している。

※２　社会で活躍するために必要な言語能力を「語彙運用力」「情報理解力」「社会理解力」という３つの領域で測定するもの。

４　筋道立てて説明できる論理的思考力の育成

めざす子どもの姿　根拠に基づいて論理的に考え、簡潔・明瞭・的確に表現する子ども

ＡＩ技術の発達により、定型的業務や数値的に表現可能な業務は、人工知能により代替が可能な社会になるといわれています。そのような社会で生きる子どもたちには、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力」といった学習の基盤となる資質能力を育成することが必要です。

そこで、子どもたちが学校で学んだことを、実社会と結び付けて課題を解決することができるよう、問題解決的な学習を通じて、論理的に思考し活用する力を育成します。

＜施策の内容＞

（１）子どもたちの論理的思考の向上を意識した授業づくりの推進

○各教科において、筋道立てて考え、説明できる力を育むために、教科横断的な「思考ツール・表現モデル」などを活用した授業づくりを推進します。

○論理的思考力向上の実践推進校において、効果的な取組を検証して「論理的思考力向上のための手引き」を作成し、授業改善を推進します。

○論理的思考力を高めるために、「小学校におけるプログラミング教育～四日市版カリキュラム～」に沿った授業づくりを推進します。

学校での取組例
- **論理的思考力向上を意識した授業づくり**
- **小学校におけるプログラミング教育～四日市版カリキュラム～の実施**
- **ＩＣＴを活用した学校の授業と家庭学習の連携**

【関連】新教育プログラム２　論理的な思考で道筋くっきりプログラム

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和８年度）
「全国学力・学習状況調査」における思考力に関連する問題の平均値	小学校　９５．３ 中学校　１０４．３	小学校　１０１ 中学校　１０５

全国平均値を１００としたときの全科目の市平均値

５　英語コミュニケーション能力の育成

めざす子どもの姿　多様な価値観や文化の中で、英語で考えを伝えることができる子ども

経済、社会、文化等の様々な面でグローバル化が進展し、国際協調の必要性が一層高まる中、これからの社会において、外国語を用いたコミュニケーションを行う機会が格段に増えることが予想されます。

そのために、就学前から英語に出会い、「聞く」「読む」「話す（発表・やり取り）」「書く」の４技能５領域を統合した言語活動を通して、発達段階に応じた英語コミュニケーション能力の育成を図り、自分の思いや考えを英語で伝えることができる力を育成します。

＜施策の内容＞

（１）英語コミュニケーション能力を高めるための環境づくり・指導体制の確立

○英語指導員を派遣し、ネイティブスピーカーの英語に触れる機会をつくり、子どもたちの実践的コミュニケーション能力の育成を図ります。

○小学校では、異文化理解を図り、国際的な視野を広げるため、「英語キャンプ」を実施し、英語を使った体験活動の充実を図ります。

○中学校では、全学年で英検 IBA を実施し、学習への動機づけを行うとともに、生徒の英語学習における目標設定を促進します。

○小学校・中学校ともに、英語担当教員の指導力の充実のため、研修会を実施します。

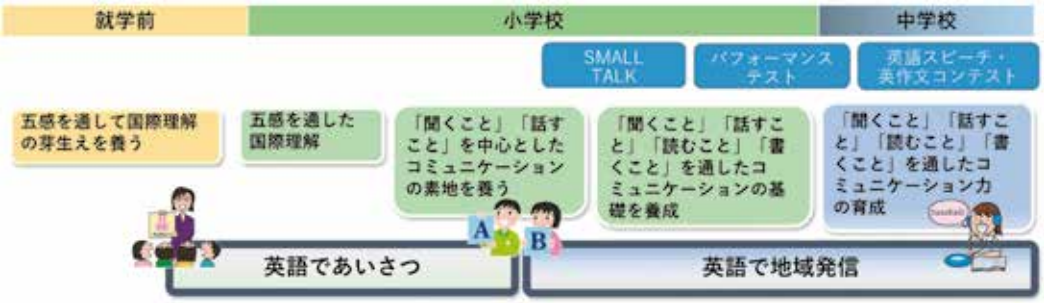
（２）「英語で地域発信！」する活動の推進

○子どもたちが学習した英語を活用し、四日市のことを語れることを目指し、「故郷よっかいちプロジェクト」※を推進します。

○姉妹都市ロングビーチ市内の学校等とＩＣＴを活用した学習による国際交流を図ります。

学校での取組例
- **授業内・外での英語指導員の効果的な活用**
- **ＩＣＴを活用し、４技能５領域を身に付けるための言語活動の充実**
- **パフォーマンステストの実施**
- **新教育プログラム「故郷よっかいちプロジェクト」の取り組み**
- **「English Lab」等、小学校教員の教職員研修への積極的参加**

【関連】新教育プログラム３　英語でコミュニケーション　IN　四日市！プログラム



指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和８年度）
①「英語を使って友だちと会話することは楽しい」と肯定的な回答をした小学５・６年生の割合	８２％	９０％
②CEFR A1 レベル（英検３級）相当以上を取得している及び相当の英語力を有すると思われる中学３年生の割合	４４．３％	５５％

※（小学校）あすなろう鉄道と三岐鉄道の駅構内において、鉄道とその沿線の施設を英語で紹介したアナウンスを放送する。
（中学校）四日市について紹介した定型文を、授業で定期的に繰り返し練習し、中学校３年間を通して、ふるさと四日市を英語で紹介できるようにする。

６　就学前教育の充実

めざす子どもの姿　遊びから生きる力を学ぶ子ども　豊かな心と丈夫な身体を持つ子ども　豊かなかかわりあいをもてる子ども

幼児が安心感と信頼感を持ち、身近な環境に関わり、自信をもって活動できるようにすることで、一人一人の幼児の発達を促します。さらに、充実感や満足感を十分に味わえるような環境を構成し、主体的な遊びを通しての「学び」の充実を図ります。

また、「知識、技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育むことを意識し、小学校教育との円滑な接続を図ります。

＜施策の内容＞

（１）幼児期にふさわしい経験・体験の充実

○幼児の主体的な活動である遊びを中心に、自ら体を動かす楽しさや心地よさを味わい、多様な経験ができる環境の充実を図ります。

○幼児の発達に即した「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように指導・援助の在り方を工夫し、時には直接体験を生かすよう情報機器を活用していきます。

（２）遊びを通した学びの研修・研究の推進

○遊びを豊かにするための公開保育を実施し、幼児の実態に応じた教育課程の編成等の改善を図ります。

○「新教育プログラム」「就学前における公立園の事例」等を基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた研修を推進するとともに、小学校との連携を図ります。

○四日市市幼児教育センター（仮称）で、市内の就学前教育・保育のさらなる質的向上に努めます。

（３）家庭・地域との連携

○遊びの中の学びや育ちの発信、家庭・地域との取組等を通して、各園が目指す子どもの姿を共有し、園・家庭・地域が一体となり連携を図ります。

園での取組例
- **幼児の興味や関心、意欲につながる環境構成**
- **多様性を尊重する保育者の援助とクラスづくり**
- **「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた保育の振り返りと教育課程の見直し**
- **遊びを通した学びの姿を家庭や地域へ発信し、幼児の育ちを共有**

【関連】　新教育プログラム１～６

1 読む・話す・伝えるプログラム	2 論理的な思考で道筋くっきりプログラム	3 英語でコミュニケーション IN 四日市！プログラム	4 運動大好き！走・跳・投 UP プログラム	5 夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム	6 四日市ならではの地域資源活用プログラム
豊かな感性や表現する力を養う	数量・時間・順序の感覚を育む思考力を養う	五感を通して国際理解の芽生えを養う	遊びを通した多様な動きの経験・獲得	人間形成の基盤づくり	地域への親しみを体感

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和８年度）
「主体的な遊びを通しての学び」について研修を行い、教育課程に反映させた園の割合	－	１００％